

令和4年度第1回三郷町総合教育会議

令和4年6月21日

事務局

皆さん、おはようございます。本日は、大変お忙しい中ご出席を賜り、誠にありがとうございます。

ただいまより令和4年度第1回三郷町総合教育会議を開催させていただきます。

まず、会議に際しまして傍聴を公募させていただいたところ、本日、傍聴はございませんでしたので、ご報告させていただきます。

それでは初めに、開会にあたりまして森町長よりご挨拶を申し上げます。

町長（森 宏範）

皆さん、おはようございます。本日はお忙しい中、また、コロナ禍の中集まっていたいただきまして、本当にありがとうございます。

まずもって、皆様に御礼を申し上げたいと思います。無事4期目、当選させていただきました。これからも、皆様のご協力、そして絶大なるご支援をお願いしたいところでございます。

4期目にあたっては、いろいろビジョンがございますので、それは後の議案の中で説明をさせていただくこととなりますけれども、皆様のお力をお借りせずにはやっていけないことがたくさんありますので、ご理解とご支援の程よろしく願いいたしまして、冒頭の挨拶とさせていただきます。

本日どうぞよろしく願いいたします。

事務局

ありがとうございました。本会議の議長につきましては、以前に委員の皆さんからご意見をいただいた通り、委員の皆さんに順番でお願いすることとなっております。今回は森町長をお願いしたいと思います。それでは、森町長、よろしく願いいたします。

町長（森 宏範）

本当に皆さんには、いつも司会をしていただきおり、感謝しております。今回司会を私がさせていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。

それではお手元にお配りしております次第に従いまして、議事を進めさせていただきます。

次第の2、案件1「三郷町が目指すビジョンについて」を議題とします。

それでは、資料の1ページをごらんいただけますでしょうか。ここで、この1ページ・2ページが、広報の7月に掲載のものでございます。まず皆さんに、先にお目通しをいただこうと思ひまして、添付させていただきました。

新たなステージに進むための6大事業ということで、すごい大きなタイトルがついております。これは何かといいますと、かねてからいろいろと皆で力を合わせてやってきた成果が、この6大事業になってあらわれてきたということで、三郷町の課題を解決する。そして解決するとともに、町を発展させていこう。という一挙両得を目指してきた結果がここに出てきました。そして長年長年、本当に長年かかってやってきたこともあります。ちょうどその長年積み重ねてきた結果が、今ここに実を開こうとしているところでございます。

それでは一つ目から説明をさせていただきます。

安心して子育てできる環境等、誰にとっても暮らしやすい環境作りのためにということで、レイモンド保育園がこの4月に完成しました。これは三郷町で待機児童が非常に多かったということで、待機児童が去年で30人ほど出ていました。それを解消すべく、保育園を作りたいということと、その横にまだ空き地ではございますけれども、就労支援施設。これもですね、働きたいのに働くところがないということで、障がいをお持ちの方から要望があったこと。そして三郷町では就労支援施設B型が1件しかないということで、絶対にやらなければならない。ということ念頭に置きまして、あの土地をそのままの状態にいたくなく、民間との協力のもと誘致できたということでございます。その結果レイモンド保育園ができたことで、待機児童が解消されました。そして、就労支援施設は令和5年度以降にはなるんですが、働きたいのに働く場所がないというのも解消されていくのではないかなと思います。これが一点目でございます。ですから、安心して子育てできる環境をと言ひながら、保育

園に預けるところがないというかなりの要望があったっていうのも一つ解消されました。

そして2番目、スポーツで街を元気にということで、このことにつきましては、3番のボードレスシティーと関連するのですが、奈良学園大学の撤退が3年半前に聞かされました。そして、奈良学園大学本体と信貴山グラウンド、この2つが撤退することによって空洞化、要は中抜けするわけでございますので、どちらも大変なことでありました。本キャンパスにつきましては奈良学園大学から無償譲渡ということが1年半ぐらいに聞かされたのですが、この信貴山グラウンドにあたっては、有償で売却するということを奈良学園大学さんの方がおっしゃいました。そこでいろいろと奈良学園大学さんと一緒になって、この信貴山グラウンドを売却する方法を考え、頑張ってきた結果、奈良県の方から奈良クラブというサッカークラブがありますよ。と教えていただきました。そして、どうぞ三郷町さん、奈良学園大学さんと奈良クラブの間に仲介でしてもらえませんかということで、奈良クラブを奈良学園に紹介させていただいたところ、両者がわかりましたと。結局両方ともお得になる方法ということで、両方ともの上に三郷町も得する方法、これは、奈良クラブが来てくれたら一番いいのにな、ということで進めてまいった次第でございます。現在でも、いろいろと処理がございまして、この次に出てくる案件の中にも奈良クラブ町民応援サポーターという議題がございまして、さまざまな課題等がございまして、前向きに前向きに今進めているところで、うまいこといけば来年1月には、完成し、そしてそこには、アカデミーも作りますので、そこで多くの中学生や高校生が、寮に入ってサッカーをしてくれるということで、活性化されていくのではないかなと思います。そして、これにあたっては、「産官学金」という、このストーリーが出来上がりました。産は奈良クラブ。官が三郷町。学が奈良学園。そして、金は大和信用金庫が融資してくれるということに決まりました。ここまで至るまでにかかなり苦労はしたのですけれども、まだもうちょっと苦労をしなければならぬのかなということで、あとはもう住民の皆さんを交えて応援サポーターを作っていただくというところに来ていると思っております。そして、スポーツで街を元気に、これだけではないのです。要するにその奈良学園大学本体の方にスポーツパークを作ろうというふうに決まらしまし

た。どんなことをするかというと、テニスコート、バスケットコート、BMX、スケートボード、ボルタリング等々です。それと雨天練習場もそこにはありますけれども、まずですね、この財源の確保が非常に難しかったです。テニスコートとBMX、スケートボードにつきましては、これは拠点整備交付金ということで、約2分の1の費用を出すことに決まりました。そしてバスケットコートに関しましては、ロート製薬からの全額負担、全額補助をいただくことができ、1000万強のお金をいただくことができました。そしてボルタリングについてはですね、B&G、ブルーシーアンドグリーンランド財団、これ凄く難しい名前なんですが、この財団の中に、子どもの第三の居場所作りという政策があります。この第三の居場所作りが何かというと、学校、家庭、その次の居場所それが第三の居場所というんですが、それをつくるのであったら補助を出しますよ。これは補助というのも全額補助になるのですが、それでボルダリングの申請をしているところでございます。これは、先行きちょっとまだ見えてこないのですけれども、これが、通過すれば非常にありがたいと思います。そして雨天練習場なのですが、これはですね、奈良学園大学さんの方に雨天練習場を置いていてくれと。非常に勝手なお願いをしました。野球部の雨天練習場で、三郷町でもいろんな少年野球また女子ソフトがあり、夜間でも練習できるところが欲しい。という声をいただいていたので、お願いしたところ、わかりましたということで残していただくことが決まりました。そしてこういう組み合わせによりまして、財源的には総額が1億4、5千万ほどかかるころだったのですが、全てが通ればですね、6割ほど補助がもらえる計算となりました。

そういうことでここをスポーツパークとし、先ほどの申しました奈良クラブが来てくれること、またスポーツパークを作ることによってスポーツで町を元気にしていこうという説明でございます。

3番目、誰一人取り残さない、ボーダーレスシティを目指してということをして、これは奈良学園大学の本体をいいます。

約3年半前に、奈良学園大学の撤退を聞かされました。非常にショックでどうしたらいいのかな。1年から1年半ぐらいずっと、検討していたのですが、大学が撤退するからやはり大学を引っ張ってきたい。または、大きな専門学校

を引っ張っていきたい。1対1の交渉というのですか。一つが撤退したんで一つが入ればいいという考え方のもと、あっちこっちあたりでしたがまったくだめでした。うちも子どもの数が減っているから、うちも面倒見てくれ、それぐらいに言われまして、1年から1年半は営業的にずっと回りどこの大学、どこの専門学校もだめでした。

しかし、奈良学園大学さんと協議し、ここをどうするかというコンセプトを立て、また小さく分けて、貸したらという方向性を見いだしました。

それがこの「ボーダーレス」という、コミュニティを作り、このことによりいろいろと入って来ていただくことができる、まず、年齢、国籍、人種、障がいの有無に関係なく、全ての方がイキイキと遊び、学び、働き、生活し、活躍し、交流する、ボーダーレスコミュニティの全世代全員活躍型「生涯活躍のまち」をコンセプトということで作り、そして名前はFSS35（さんごう）キャンパス、ちょっと言いにくい名前なのですが、FSSのF、フューチャーテクノロジー、未来技術ですね、そして、その次のSはSDGs、サステイナブル開発目標。そして共生社会、シンバイオティックソサイエティということでFSS35キャンパスと名付けました。大学は撤退して、学生のキャンパスではなくなりますが、ここをキャンパスと名付けたのは三郷町の住民のキャンパスでいいじゃないかということで三郷キャンパスとしました。そして、これが今、ほぼほぼ全館が満杯になり、というのは、やはりこのコンセプトを立てたことによって、また、小さく分けたことで、参入していただけた民間が、非常に多かった。ということで、未だにですね、進化し続け、たくさんの問い合わせが来ております。9割9分、9割5分ぐらいは満杯の状態になっており、これから問い合わせが来たらどうしようかなというぐらいの嬉しい悲鳴に変わっております。

でもやはり民間の経験や民間が持っているノウハウっていうのは、非常にありがたいもので、先ほどから言っておりますボーダレスですので、生涯活躍誰もが活躍していこう。というこのコンセプトに、賛同していただいているところが多いと思っております。

4番目、大和川の魅力を活かした新しいまちづくりを、ということです。

これはですね日本遺産に登録された龍田古道、亀の瀬、これが非常に良い好

評を得ております。

まず先に川の駅の方から話をさせていただきます。三郷町は日本遺産に認定されたので交流拠点が必要となりました。どこで交流拠点を作ろうかっていうことで、下水処理場の後、ここを、日本遺産の交流拠点にしようかということ、作りました。そして大和川に面しているので、川の駅はどうかなということ、提案しました。しかし、みんなから川の駅ってなんやろ、と言われてまして、よくよく調べてみたら、日本中に結構あるんですね。20個から30個ぐらいあります。でも、道の駅は、国道がなければ建てられません。そして補助金も出ません。川の駅は、日本遺産の交流拠点ということで、日本遺産の部分から補助が出る、こういうことで大和川の前にあり、川の駅を作ればいいなということで、進んでいってるわけでございます。

そしてかわまちづくり、これが去年の8月に国より採択を受けました。どこで採択を受けたかということ、大和川のJR三郷駅の裏手で、採択を受けました。

三郷町は大和川の水害で悩まされてきた町です。かなり以前から私は大和川の土砂をとる、すなわち浚渫（しゅんせつ）をしてほしいと嘆願してきました。何回も河川事務所の所長には言ってきたわけですが、それが、やっと国の方で受け入れていただいたのは、2年半前なのです。2年半前に大和川の所長が来られまして予算がつきました。しかし、土砂を持って行くところがなかったのです。国からは土砂や砂を持って行くところがないので何とか助けてもらえませんか。と言われてました。せっかく浚渫の予算をつけていただいたので、私の方で考えましよう、そしてお願いしたのが、信貴山のどか村です。1年かかりました。そして、国では、その浚渫した土や砂を有効的に活用してくれる案を町が出してくれたよねということで、そのかわりに、大和川に公園を作りたいですよ、それは国の方で公園を作りましようというそういう話になり、非常に様々な事業にリンクしていきました。

そしてリンクしていった中で、三郷町の西側の地域をもっと活性化させようということで、にぎわい作りをもう一度三郷駅周辺でやっていきたいと考えております。かわまちと川の駅、本当に近くなんですよ。

400mから500mほど、それから龍田古道にもリンクしていけるという関連性が良いということです。

5 番目、多角的な視点で捉えるまちづくりを、ということでこれは先ほどもほとんどお話をしましたけれども、大和川の浚渫が決まりまして、そして土砂を持っていくところがない、なんとかしてほしい。ということで、1年かけ、のどか村の社長を口説きました。はじめ、のどか村の社長は、大和川は水質が汚いのでどうかな、という不安を口にされておりました。

でも、大和川はもう汚くないのですよ。水質が悪いということで一番最下位だったのはもうすでに10何年前の話。20年ほど前の話かもしれません。

日本で一番汚い川とまで言われたときもありました。でも今は、ワースト10から外れてます。なぜ綺麗になってきたかといいますと住民さんの意識も向上したこと、下水の整備が行き渡ってきたこと、そして今まででしたら下水に流さずに全部川に垂れ流し状態でした。でもだんだん下水が完備されてきて、水が綺麗になってきました。その数値はBODという数値で表すんですが、それが非常に良くなっているということも、のどか村の社長を説得する材料の一つでした。そして、浚渫した土砂でのどか村の谷合を埋めるのですが谷合を土で埋めることで横に広がる。ですから生産性が向上しますよともお伝えしました。これは実際にちょっと私がプラモデルで示したのですけれども、約有効面積が1.5倍から2倍ぐらい増えていくのです。そうしたら今、のどか村の方も作る場所がないというぐらいに、生産性が悪くなっています。ですから面積が広がることで、生産性が向上しますよ。造成は国から出してもらいますよという形で説得しました。ついでにですね、社長もう一つだけ言うこと聞いてよと。災害が多数発生しています。また、地震も発生している。土砂の活用をさらに有効活用するために、防災拠点にしてもらえないか。そして広域避難所にしてもらえないか、のどか村の位置からすれば隣がもう数十メートルで大阪府柏原市、そして信貴山の観光客もたくさんおられ、平群町も隣接しています。そのため、広域避難所ということでお願いできませんかってお伝えすると、しやあないなと言ってくださいました。そして国の方は、やはり悪い物の廃棄という観点を払拭したかった、特にその大和川の汚い泥や砂を廃棄するのではなく、要はその一部を活用したことで事業をやってくれるということで非常に喜んでくれました。特に岡山での大災害や熊本の阿川の水害、この二つが大きく大きく報道されたり、注目されていたときですから、ここについては国の方で

は喜んでいただいたということで、また説得の仕方で、のどか村の方も生産性上がるのであれば、という観点になりました。また、三郷町の方でも、避難所をたくさん作らなければ、ということで、これは3社ともよかったねという形になっております。もう浚渫は進んでいるのですが、本当に本格的に進むのはこの年末ぐらいからになるかなと思います。今、のどか村に入る進入路を国の方が作ってくれています。その進入路が出来上がれば、どんどん運び込むことができる。それと距離が非常に近いということで、私も実際に何回も、走って、トラックのスピードぐらいで走りました。なぜ、それがいいのか、住宅地をほとんど通らない。どこから上がっていくか、亀の瀬の工事の道路を活用します。そしたら、柏原市の里山公園というところから出て行ってそこから数件、民家の前は通るのですが、そこを通過してのどか村に土砂をおろして、帰りだけは申し訳ないですけど三郷町の中を通ります。三郷町を下る方向的には3方向に分けられます。イーストヒルズの中、信貴ヶ丘の中、いわせが丘の3方向に分けて、1か所に運ぶ台数を減らす、それと登りよりも下りの方が音はしないので、住民さんになるべくご迷惑をかけないようにやっていきたいなと思っております。本格的には先ほど申しましたように今年の年末から3年間ぐらいかかるのではないかと考えております。

そして6番目です。災害に強く、成長するまちづくりをということで惣持寺地区の遊水地の話です。三郷町の周囲の長さ17キロあるのですが、そのうちの4分の1が、大和川に接しています。おかげさまで大和川は、時には癒しになります。

しかし、大雨、台風が来たときは災害が起きるという事で、この惣持寺地区は、今まで一番浸水した地域になります。この2、3年はちょっと落ち着いてますけれども、それまで相当浸水した地域でした。浸水して当たり前になっていてかなり住民さんからもなんとかしてほしいというお声もあがってありました。そこで、大きな内水対策の池を作ってもいいよ、ということで県から平成緊急内水対策の場所に指定していただき、ありがたかったなと思ったんですが、莫大な費用がかかる。当時は社会資本整備で補助が3分の1しか出ませんでしたけどでも、大和川が日本で初の特定都市河川ということに決まり2分の1まで補助率を引き上げようということになりました。すごくでかいんです

よ。1万6500 m³の池を作る。この補助が3分の1か2分の1で大きく違います。そこにまだ県が1割ほど補助してくれるので大きく前進したなということで、これも今年度から工事がスタートし、池については2年間で工事をします。ここまで上がったら今度はその上の土地をどう活用するのか、というのが今論点になったわけでございます。

上部は約3500平米、非常に大きな事業で、ことについては、次のとこで、お話いただきたいということで、6番目は災害に強く、そしてその上部を活用した成長するまちづくりをというタイトルにさせていただきました。

そしてもう1ページめくっていただければ、三郷町が目指すビジョンでございます。

今、話させていただいた6大事業とかなり重複するところがございませうけれども、一つずつ話をさせていただきたいなと思います。

まず、文教行政エリアということでど真ん中に書いております。

建て替えや、複合化そして機能連携検討をしていかなければならない時代がきたなと思っております。特に建て替え、三郷小学校の建て替え、これももうそんなに時間がないと思います。そしてよく言われるのは、庁舎どうするの。とよく言われます。しかし、それよりも、やらなければならないことがあるでしょうということで、庁舎は後回しでいいのではと思っているのですが、住民さんのためには、庁舎も必要やでという声はいただいています。しかしながら、一つのものだけを考えて、一つのものだけを作ってしまうと、あと、連携するのに非常に困難な事がございませう。そこで、先を見据えた中で、このエリア文教行政エリアと名付けたのですが、三郷中学校があり、三郷小学校があり、庁舎があり、JAの三郷出張所があり、近鉄信貴山下駅が、文化センターがあり、福祉保健センターがあり、ウォーターパークがあり、中央公園があり、図書館がある。これだけ集約されたところをそれぞれ一つずつだけ見ていく時代ではない。ということで、全体的な構想が必要ではないか、同じものを何個も作るよりも、なるべく機能を集約させて上手に活用すれば、非常にコストも下がる。ということで、このところを文教行政エリアとして、今後いろいろと検討していきたい、と思っております。そして右側のヘルスパークエリア。

これは先ほどの惣持寺地区の調整池の上部の活用のことなのですが、まず大きくはヘルスパークだと私は考えてます。今、ヘルスロードという観点で三郷町に5つの拠点を置き、健康器具を置くという計画で進んでおります。三郷町には本当にウォーキングしていただいている方が非常に多いですね。やはり、健康上は歩くということが非常に大事なことであるので、5つのエリア、5つの周回をするような場所を作っていく。その拠点をヘルスロードと名づけていますがそこもヘルスパークと名前は付けているんですけど、小さいヘルスパークとそこは考えていただいて結構かと思います。一方調整池の上部、こちらは大きいヘルスパークという意味で結構かと思います。先日私も他のところのヘルスパーク見に行ってきたのですが、そこはすごかった。健康器具が20何個も置いてあって、そこは本当に高齢者であろうが、若者子どもまでが体を健康にするために、健康器具を使っているのです。非常にいいなあと思いました。三郷町にもそういう拠点が必要である、と思います。歩いた後、健康器具で調整をするその健康器具だけで1日、調整することができます。その中だけでも200mほど歩けるようなコースが作ってあり、その中にもたくさん健康器具を置いてある中で、この健康器具ではこういうことができますよっていうちゃんと説明がある、良いところだなと思って見てきたんですけども、そういう大きなヘルスパークを作っていきたい。そして、まずもう一つは、やはり防災、ここはもう防災公園とすべきかな、と思っています。防災公園も調べてみたら結構日本中さまざまなところにあるのです。大阪でも私もこないだそれも行って来たんですけども防災公園、防災のための避難所を遊具と合体させる、ちょっと説明がしづらいのですが、要はパーゴラ。休憩する場所、そこにテントを張れるこれがパーゴラで、災害があつて避難する避難場所が無いときにテントをはるとそこが避難場所になる。これがパーゴラといいます。そういう公園にしていきたいと思っています。ヘルスパークと防災公園を兼ね備えたヘルスパークエリアを今後検討をしていきたい。左下に移っていただきますけれども、生涯活躍エリアということでこれは、先ほど申しました通り、FSS35キャンパスに部分につきまして健康交流ゾーン、教育研究等の残業新興ゾーン、そしてスポーツパークということで誰もがですね、来ていただいて、また生活していただくそういうゾーンにするということで生涯活躍エリアとさせていただきます。そしてにぎわい創出エリア、これも先ほど説明させていた

だいた通り、かわまち、川の駅そして日本遺産の龍田古道、亀の瀬これを連携させるとともに、JR三郷駅周辺が今、非常に元気がなくなってきております。といいますのも、やはりスーパーの撤退が非常に大きかったです。あちこちスーパーを再度来ていただきたいと思って頑張ってきたんですが、どこに依頼してもスーパーは進出してくれません。今のところ移動スーパーで対応しております。このままでいけば、多分スーパーが再開することはまず不可能だと私は思います。

なぜか、かなり人口が減ってしまったことに加えて、大学の撤退がさらに拍車をかけてまずこないであろうと想像しています。しかし、そのままでも駄目です。やはりここで賑わいを創出する。人口を増やすという方向も取りながら、ここを先ほど申しましたように、国がかわまちをつくる。日本遺産で交流拠点にする川の駅を作る。そして、もっともっと三郷駅周辺に来ていただいたら、どんどんどんどん人口も増えていって、逆にそうやってきたらまたスーパーも、進出してもらえるところが出てくるかもしれないということで、ここをにぎわいの創出エリアとさせていただきます。そして最後に、観光促進エリア、今三郷町にはいろいろないいものがたくさんあります、特に信貴山のどか村や龍田大社で龍田古道そして三郷町ではないですが、信貴山朝護孫子寺などと、他にも、寺社仏閣がたくさんあります。けれども、そこをですね、一つ一つで捉える時代ではないのではないかな。全体的に連携的にここ行ったら次ここ行ってね、っていうような仕組み作りが必要だと思います。三郷町全体で観光のエリアとする。寺や神社だけではなく、いろんなことができる亀の瀬もそうなんです。今、亀の瀬もかなりお客さんがこられています。もともとは、インフラツーリズムをしたかったので入れたわけですが、それが成功になりました。そこも含め、三郷町、それと三郷町近隣も含めて観光のエリアということで、漠然としてますけれど、大きくとらまえて連携していこうという、これが今三郷町が目指すビジョンとして進めていこうと考えております。そして、最後になりますけれども、今まで、12年間、皆様にご協力いただきまして、頑張ってきました。

そして、いい方向にこれたのかなあとと思います。しかし、私が振り返って12年間で、思ってきたこと、意識改革も行ってきました。12年前はつきり言いまして、この町は駄目でした。

これもあかん、それもこれもどれをとっても駄目駄目駄目。こればかりだったんです。

なんちゅう町やねん。こんなことで、発展できるのかそう思いましたね。

12年間、一歩ずつ一歩ずつこれをやろうあれをやろうと言ってきました。最近になって職員の意識がこれしたらどうですか、あれしたどうですかに変わってきた。私、実感してます。ですから、他の町からもよく言われます。三郷町すごい取り組んでますね。よく言われるんですよ、これは非常にありがたい。私自身が実感したのは10年前、これも駄目あれも駄目、何もできへんかったけれども、そう言われながらも、これしたらどうやと少しずつ意識改革をしていったら逆に職員の方からあれしませんかこれしませんか。こういう発案に変わってきているそれが、やはり、他町村からは、三郷町素晴らしいね。と言っていただけのことだと思います。次に、連携。庁舎の連携と、住民さんとの連携この二つが重要なのですが、連携は、できていません。どうしても縦割りの中、自分の課の仕事は自分の課だけ。他との連携はさっぱりしない連携したらもっと小さいことでももっと大きく見せることができるのにな。今その連携が非常に上手いこと出来上がってきています。連携っていうのは非常に大事です。これも、毎回毎回私は、嫌われながらも、連携大事やね、ということをお願いしてきました。今、庁舎内では連携がすごく進んでいます。もう一つは、住民さんと民間との連携。これを重視してきました。行政というのは自分らがやる、自分らしかできないという体制がありました。これが12年前でした。しかし民間とまた企業と連携したらメリットはそっちの方が大きいんですよ。財政的にもそうです。行政やったら、計画は立てるけど、後の収支はほったらかし。赤字なのは当たり前赤字になったら、責任は取れへんけど、やめたらいい。こんなんでは、民間からしたら恥ずかしい話です。民間はどんなもんか。よくわかっておられますよね。赤字になったら、そして、責任を取らせるのは社員ですよ、クビですよ。そんな公務員なんて、誰もおりません。赤字になってもいい。計画は作ったら作ったで終わり。こういうことではあかんや。収支的に最後まで責任をもたなければいけない。計画を作ると数値の目標も作らないといけない。そういこともお願いしてきました。でも、今、三郷町が、それほど財政が悪くない。というところには、みんなが頑張ってくれていることがあげられます。補助金なしでは事業はやらない。補助金なしの事業はしな

い。ここまで思って頑張ってくれて、これはもう関心するところでございます。そして、前向きに前向きに今は特に前向きになってるのは、官民連携です。要は、企業民間のノウハウを取り入れて、逆に財源も出してもらおうとあそこまで仕事を考えてるわけですがけれども、それぐらいしないと、公（おおやけ）は、悪い方向に行くのです。そこに早く気がついて欲しいというふうに私は思ってきましたので、今やっと、そちらの方向にきたのかなと。まだまだこれは完成ではありません。これからまだまだ何年もかかるであろうと思いますけれども、一つの方向性が見い出されてきたと思います。

三つ目です。三つ目は、若手の発案を大事にしていくということで、以前からいいアイデアを出しよ。と言ってきました。

ところが、なんで、発案しないのか、そんなもん発案したら、部長課長補佐この辺からあかんって言われるのは決まっていますやん。そんなことあらへんやろ。でもね、そう言われるのは当然かもしれないな、自分でもそうするかも分からんっていうことから、若手の発案をどうしたら吸い上げることができるのか、こういうことに着目し、それはプロジェクトを作ることでした。要は、誰が発案者か分からなくすること。若手が集まって、いろんな話し合いをします。そしてこんな案が出ました。それを直接私のところに持ってきたら、良いか悪いか判断をするよ。と、そして方向性が違えば、アドバイスもします。私のところにダイレクトにもってくることができるプロジェクトを作るということで今、若手のプロジェクトが4つ5つ、出来上がってしまっていて、そこからの発案がたくさん出てきております。もう一つは、若手の職員と住民さんの若手の方々がコラボをする。これも一つの手やなど、それも今、手がけている事業もあります。こういうことですね、自分たちがいいと思ったものを、若手を考えた良いものをあげたくても、あげることができる土台じゃなかった。公というのはそういう風土だったので、外から見たらよく分かりますし、外部から行政に入った私は本当に実感しました。

私は、やはりこの3点とも変えていかなければと思いました。そして、意識改革をやってきました。実際にかわりましたよね。という職員の声もたくさんは出ています。まだまだ変えていかなければならないところもありますよねっていうのもよく聞きます。ですので、第三者での見る目を大事にしながら、連携をして、そして、駄目ではなくこれもしたらどうやろう。あれもしたらとい

うという風土づくりが本当の行政であって、それがひいては、住民さんのためにあるのではないかなと思っています。

非常に長々とお話させていただきました。三郷町のビジョン並びに、私が内々的にやってきました、庁舎の中の意識改革これをお話させていただきましたけれども、皆様にはちょっと耳障りなところもあったかもしれません。

でも、今、改革すべきとき、また今方向性をしっかりと作って行くときであります。三郷町職員一丸となって、前向きに前向きに頑張っていきますので教育委員の皆様にあっては、これからも、ご支援をいただきたいと思います。どうぞよろしく願います。ありがとうございました。

そういうことで、今三郷町が目指すビジョンについてお話させていただきましたけれども、何かご意見ご質問等はございませんでしょうか。

教育長職務代理人（鶴丸 浩）

分かっているところで良いのですが、空き家は町内の何パーセントなのか。

町長（森 宏範）

見た目が空き家って言われるのは300数件です。ところが、調査をしてみると、空き家ではなく資産として持たれてる方が多いので、これが、3割弱ぐらい200件近くある。ですから、実際の空き家は100件強ですね。

教育長職務代理人（鶴丸 浩）

通学路に限らず、われわれ住民が安心して暮らせるまちづくりの中で、空き家にもいろいろあり、本当にボロボロの空き家で風が吹くと物が飛ぶようなもの。そういう風な崩れかけた空き家はあるのですか。

町長（森 宏範）

あります。

これは老朽空き家ということになります。これは、かなりお金を出してでも、していただくということで、補助金は自治会の方からここを何とかしてくれという要望は結構きていて、そこに申請いただき、対応いただけなかつ

たらこちらから要請をします。

最終的には強制執行も視野には入れておりますので自治会の方にどんどんどんどんそういうふうな申し出をしていただいた方がいいと思います。

教育長職務代理者（鶴丸 浩）

今町長より三郷町のビジョンをお示しいただいた中で私は、命が一番だと、どの事業をやっていく中で、やはり重要なのは安全なのかなと思います。

例えば信貴山のどか村の土砂の件では、以前日本国内で土砂崩れがあり住民の方が被害を受けた。もう4年になるかと思いますが、大阪北部地震があり、ブロック塀で子どもの尊い命が犠牲となりました。その時はどの自治体もブロック塀を集中して調査しました。そのあとは土砂崩れなど、一つの物事がおきるとそのことばかりがクローズアップされる。また他のことがおきればそちらへ。

坂根、辻堂間の境目に低いガードレールしかない。こういうところではいつ何時事件事故が起きるかも分からない。何かが起きたから、対応しようという事ではなく、何かが起きる前に対策をしていただきたい。

町長（森 宏範）

教育長職務代理者の言うとおりで、何においても命が一番だと思います。命なくして教育福祉は語られません。命の大切さっていうのが一番です。確かに委員がおしゃったように、その一つ一つを取ったら事後かもしれません。

そこが連携だと考えています。

教育委員会ではここが危険通学路はここが危険ということが分かっています。でも、それを直すのは都市建設課ということで、連携ができてないんですよ。もっともっと連携していったらいいんです。連携しようとしなから、事後になってしまいます。問題があったら、プロジェクトでも作って進んで前向きにやっていったらいいんです。でも、普段の仕事があまりにも多いもはやから、連携をしない。

先ほど、空き家が何件ある。老朽空き家もある。っていうのを話しました。それは、住環境政策課が把握しており、そこがここは通学やからっていう考え方にもなると、もっとスピーディーに解決できるものと自分とこの仕事だけで

終わらそうとするから、ないんです。

ですから、職員の根底の中の一番大事なことは何か、これが、命やっという
ことをもっともっと、深く、認識すべきときなのです。

それが出来ておらず、自分の仕事が忙しいからそれは二の次になっている。
これ大事やでとなれば、その部署だけでは出来ません。出来ないのであれば各
部署が集まってやったらいいんです。そういう声が上がってきて欲しいなって
思っていますけれども、上がってこなかったらプロジェクトをつくりなさい、
という話しをしようと思っています。本当に良いことを言ってくださり、命な
くしては何もなりません。

教育委員（芝崎 善彦）

命はすごい大事なことだとおもいますので守っていかないとだめですね。せ
っかく町長が良い意見・ビジョンを話してくださいましたが、住民も一緒です
が、町の職員に浸透していくかがすごい不安な時もあるって、連携がどうい
うシステムなのか、また、管理してる体制がちゃんとあるのか、今のお話でもあ
ったが、自分の仕事で目一杯でそこまでしてもらえないってのはあると思うん
ですが、しっかりしていくとなれば管理していくシステムが必要と思う。職員
の普段の仕事の行動のなかで、住民から見て、あれ何してるんやろうってこと
がまだまだたくさんあると思う。だから、ちゃんと管理しているシステムがあ
るか不安。公用車に乗って、制服もきてて、住民さんの目もあるのに、言う
たらだめかもしれないが「さぼってるんじゃないか？」ってのがある。職員
の行動はちゃんと管理されているということが、住民さんが知っていたら何
も思わないと思う。窮屈になりすぎてもだめだがもう少し管理したほうが
いいのではないのでしょうか。

一生懸命に頑張っておられる方々が損をするんですよ。

町長（森 宏範）

管理も意識改革なんですね。また過去にさかのぼりますけど、12年前、もう
むちゃくちゃでした。

でも、それは、個人個人の個性というか、個人によるんですよ。今、確
かに、委員がおっしゃるように、まだまだなってないのは確かです。それが何%

できたかっていうのも数字では言い表せません。システム的にって言われても、そういうシステムがあるわけでもありません。しかしながら、良くなっているのは確かなんです。意識が変わってきているんです。今までなら、与えられた仕事だけをやればいいという時代だった。それが、12年前は与えられた仕事どころか、どこでさぼろうかという、こういう世界だったんです。それを見してきました。でも、その次に来たのは与えられた仕事だけはちゃんとやります。そこから、今は数段上がりました。今はだいぶ意識は変わりました。でも、それがシステム化されたかという、まだまだなんです。ですから、こういう意見をいただくということは、私も、教育長も、職員もいますが、こういう意見を持っておられる住民さんがおられるよってというのが、これがまたみんなにとっては意識改革になってくると思います。ですから、こういう案が欲しい。三郷町はまだまだやで、と言っていた方が、僕らにとっては、引き締まるんですね。今良くなったねだけなら天狗になっちゃいます。でもそうじゃないです。言っていた方がありがたい。ですから、今日みんなが帰って、やはりこういう意見もあったよ。これはここにも部長もおりますから、部長から、教育総合教育会議でこんな話が出たよっていうのを、報告すべきだと思います。私だったら、全体的に報告できます。ですから、こんな意見をどんどん欲しいんです。良くなったんじゃないというのは、これは当たり前でしかないんです良くなった。ならないとだめなんです。でも、良くなるよりも、悪い意見も欲しい。みんな安心してらるっていうそれにあぐらをかいた何かどんどんどんどんやっぱりグサッとくるような意見これが、会議の良いところじゃないでしょうか。それに向かってまた良くしていこうという、みんなの気持ちを統一していこうっていうそれと、やはり、住民さんの目は、ちゃんと職員に向けられていること。与えられた仕事だけではいけない。もうワンランクアップのために何かを考えてやっていこう。ぐらいの気持ちを持ってほしいとよく言うのですが、それがそこにつながってくるのではないのかなと思います。今、教育委員（芝崎 善彦）からいただいた意見、非常にありがたいなと思いますし、私もそのことをどういうふうに皆に伝えていくかを考えていかないとと思っています。非常にありがとうございました。

教育委員（窪内 真一）

ここ数年、町長より聞かせていただいていたことが、こういうふうにつながっていくのか、というのが分かりました。本当にありがとうございました。

三郷町が目指すビジョンの中で、ぜひとも入れていただきたいのが、コロナ禍になってから特に、親の心理的、社会的な圧迫が子どもに向けられているという精神的なものも含めて、子どもが圧迫されている。これは裕福な家庭であっても、そういうことがある場合があります。子ども一人一人がおかれている立場によって、さまざまなことがふりかかるとは思いますが、小学生であっても中学生であっても、自分はこういうこと目指して頑張っていこうという形で日常生活を過ごせるような、また、そういう子どもたちを回りの大人がサポートできるような町になってほしい。コロナ禍になって特にそう思います。そのことをビジョンの中にぜひ入れて、表現してほしいと思っています。

言葉に表すことで、町長や行政が発信することで皆さんの意識改革を伴うと思います。

町長（森 宏範）

質問に対して2点ございます。1点目は、6大事業のところでもご説明しましたが、スポーツパークなのですが子どもの第3の居場所をつくろうということです。奈良学園大学に、安全で遊べるような場所をと考えています。

2点目は、重層的支援体制整備事業。これは行政の縦割りをなくし、その体制を整えようという事業です。

※以下、重層的支援体制整備事業の発言について個人情報が含まれるため、非公開としています※

教育委員（下方 恵理）

町長のお話を聞かせていただき、この6大事業の広報が住民さんのお手元に届く中で、さらに期待値も上がっていくと思っています。そうになると、教育委員（芝崎 善彦）がおっしゃられたように、職員の方を見る目も厳しいものとなると思われます。これは、住民の皆さんがこんな町になるんだという期待の表れであり、また、職員の皆さんも一所懸命、町を変えていこうと頑張っておられると思います。その変わっていく町に住民も一緒に巻き込みながら、連れて行ってほしいと思います。町と職員の方が先に行ってしまうのではなく、住民も一緒に行くような事業。みんなで一緒に頑張っていこうという町であれば、町に対してもっとより愛着を感じていただくのではないかなと思います。例えば、みんなで三郷町ポイントを集めて、かわまちが良くなっていく、住民さんが頑張っていることによって、町の事業がもっと良くなっている。ということのようにみんなで一緒にやっていきたい。そうすることで、住民さんの意識も変わってくると思います。すごく楽しみにしています。

町長（森 宏範）

下方委員が仰るとおりだと思います。

日本遺産の認定を目指そうとしたきっかけが、郷土愛いわゆるシビックプライドだったんです。郷土愛を醸し出すことが一番の目標でした。観光は二の次だったんですね。三郷町を好きになってもらう。そうすると三郷町を大事にしてもらう。住民さんと職員が一体となって、協力体制をつくるのもっと良いまちになるということが、日本遺産認定を目指す意義でした。そして、次にこれは観光につながり、交流人口増加にもつながり、ひいては三郷町の人口増加にもつながり、町が良くなると考えていました。

それとSDGsです。SDGsはスマートシティを目指す一方で、三郷町を助けていただく、メンター（サポーター）を増やす。これを今推進しています。一足飛びにはいきませんが、この協力していただくメンターが徐々に増えてきています。行政だけでは、まちづくりはできません。先ほどのかわまちでもそうですが、住民さんの若手と職員の若手が議論し、方向性を見出そうとしています。あとは、奈良クラブ応援プロジェクト。このプロジェクトも職員だけでなく、みんなで盛り上げていこうというプロジェクトです。時間はかかる

かもしれませんが、まちづくりは住民さんと一緒に考えていかなければなりません。今までの行政のやり方とは変わってきています。そのことも、職員のみんなは良く分かっています。

教育委員（下方 恵理）

若手の面白い発案などがありますが、サポーターなど特別な役割の中で、普段生活をする中で、できる取り組みなど、そのような案が出ると良いと思います。日々の中でこれをすると三郷町に貢献できるなど、若い方の面白い提案があれば良いと思います。

ポイント貯まるのは良いと思いますよね。

教育委員（芝崎 善彦）

ホテルとかでやっていますよね。今月のキャンペーンで、一番笑顔はどの従業員でしたかなど、お客さんから投票してもらおうとか。良いことを第三者からの視点で、頑張った成果がどこかで評価されると良いと思います。

空き缶を集めるのも一緒だと思います。きれいにしていこうというキャンペーンとか、もっと盛り上げるための意見募集とか、小学生に未来を創造した川の絵を書いてもらうなど、かわのまちのイメージは？などそういったことも募集しても良いかも。子どもたちの意見を聞くと、参加型になると思う。プロジェクトに参加できたらいいなと思う方は多いと思う。プロジェクトの募集でいろんな方に参加いただき、参加してもらおうといろいろな意見があると思う。しかし、自分たちで作り上げることが大事だと思う。

教育委員（窪内 真一）

イメージとして、役場やプロジェクトの会議などで、住民さんが何かしら役割を担い、絶えず役場庁舎に訪れるような姿が良いと思います。

教育委員（下方 恵理）

そうすると、三郷町の役場に来たら、1ポイントのような形で、、、

教育委員（窪内 真一）

用事がある方しか、役場には行かない。用事あるないにかかわらず、気軽に役場に行けるような。何かのプロジェクトに参加するために来る方がどんどんくるような状態に役場がなれば、すごく一体感があるなと感じますね。

教育委員（芝崎 善彦）

そうなると、役場だけの建物ではなく、さまざまな施設が一つに入っているような庁舎が望ましいと思う。ここに来たら何でもあるというような。

町長（森 宏範）

理想も含めて、全てを実現させようと思うとかなり時間がかかります。一つずつ段階をふまなければなりません。実は、住民さん参加型のプロジェクトはいくつかあります。例えば、生ごみ処理のモニター募集で環境問題に取り組み、サラダ油を役場で集めたり、ということで個人的にも行政に協力しようという方は多くおられます。ただし、この宣伝・周知が上手ではない。もっとPRすれば、もっと参加していただけたらと思っています。こういうことも良いご意見、勉強になったと思っています。

教育委員（芝崎 善彦）

そういう事を知らない方が多い、広報が入らない世帯が多いんですよね。広報入らない世帯が何%あるのかとみると、結構あるんですよね。

町長（森 宏範）

自治会に入っておられない方が多くなっていますね。

教育委員（芝崎 善彦）

そうなんです。そういう方がすごく増えています。

町長（森 宏範）

時代もあるのかも分かりませんが、近隣との付き合い・行政と関係が希薄になってきていることもあると思います。

教育委員（芝崎 善彦）

そのような意識を変えていくような方法を考えていかないといけないかもしれない。付き合いたくないのであれば、ほっておこうというのではなく、行政と関わりを持つと得をするよ、というような方向に持っていくことはできないのかな。そして、どんどん取り込めるような形など

教育委員（窪内 真一）

P T A活動もそうですよね。嫌がりながらも 10 年されてきた方が、終わりには「いや～面白かった」というような。

教育委員（芝崎 善彦）

すぐには、難しいかもしれませんが。

町長（森 宏範）

しかし、このように意見をだしていただくことが、1 歩前進だと思っています。なければ後退しますので。本日は本当に良い意見をいただいたと思います。

それでは、今の「三郷町の目指すビジョンについて」何か質問はございますでしょうか。

それでは、次第 2 案件 2「奈良クラブ町民応援サポーター」について、を議題とします。それでは、担当課より説明をお願いします。

生涯学習課長（高塚 知己）

よろしく申し上げます。

資料の 4 ページをお願いします。

三郷町民サポーター推進協議会設立について、ご説明させていただきます。

先ほど、町長からも説明のありましたとおり奈良クラブが信貴山グラウンドを購入し、人工芝のサッカー場、クラブハウスの備えた練習拠点を整備し、地域交流の拠点、選手育成の拠点となる新施設を三郷町に開設することになりました。現在第 1 期の工事がすすめられており、令和 5 年 1 月頃の完成予定です。また、新拠点には地域住民のみなさんも気軽に来いただけるよう、グッ

ズや地元の農産物を販売する店舗等も令和5年度の第2期工事で建設される予定となっています。三郷町としましても、町の活性化と子どもたちの育成につながることを期待しており、奈良クラブと連携協力に関する包括協定を6月26日に締結する予定となっています。そのため、Jリーグに昇格することを目指して頑張る奈良クラブを町民の皆さまとともに応援するため7月3日に三郷町民サポーター推進協議会を開催します。設立の目的は、奈良クラブの練習拠点が町内に新設することに先立ち、ホームタウンチームを通じた、町民相互の交流を促進、町民が地域に愛着や誇りを感じ、地域の活力や一体感の醸成を図れるよう町民サポーターの取り組みを推進する体制を確立するものであります。構成委員につきましては、本町に在住在勤、または在勤されるか、されている方活動基盤を町に本庁に置く各種団体および有識者であって、今回の目的に賛同する委員で構成をいたします。具体的には、団体といたしまして、三郷町スポーツ協会、三郷町スポーツ少年団元気ひまわりクラブ三郷、奈良クラブ応援プロジェクトを想定しております。活動内容についてでございます。

町民サポーター会員登録の促進といたしまして、広報誌等により、増員を募りまして、会員書およびタオル等を配布いたします。

試合観戦をいただくことで町民、サポーター文化を醸成し、活動の場を広げます。ホームタウンチームを通じた地域コミュニティの活性化についてでございます。町や奈良クラブが主催するイベントに参加していただくことで、サポーター同士のコミュニティ作りの場を提供し、一体感のある組織作り地域作りに取り組んでまいります。

町民がスポーツに触れる機会の創設といたしまして、三郷町民デーを初めとし、奈良クラブの試合観戦を足すものでございます。

なお、町民サポーター会員は、11月頃から募集の方を開始いたします。

最後に教育委員の皆様におかれましても、ぜひとも、町民サポーターに登録をしていただき、ご家族全員で応援していただけますようよろしくお願いいたします。

町長（森 宏範）

ただいま説明がありました奈良クラブ町民応援サポーターについて、つきまして、何かご意見はありますでしょうか。

教育委員（下方 恵理）

町民サポーターはどれくらいの数を予定されているのですか。

生涯学習課長（高塚 知己）

今のところ、3000人を目標にしています。

町長（森 宏範）

よろしいでしょうか。

それでは、議題の3、その他についてであります。

何かございますでしょうか。

教育長職務代理人（鶴丸 浩）

その他なのですが、先ほどもいろんな形で官民一体といいますか、町の職員と地域住民の関係を話していただきました。例えばなのですが、西部保育園の職員は町の職員ですか。

町長（森 宏範）

はい

教育長職務代理人（鶴丸 浩）

西部保育園の職員の方は龍田大社の駐車場にとめて、出勤されると思いますが、その方々はわれわれ地域住民に挨拶をされない。また、私は旗持ちをしているのですが、近くに公文式というものがあり、そこの職員の方は毎日挨拶をされる。地域住民とのコミュニケーションという話が出てくる中で、この通りだと思います。地域の中に保育園という施設があるわけでありますので、当事者の意識もさることながら、施設の長の方のやり方にも影響してくるのではないかと考えているところがございます。ぜひとも、そういうことも検討いただき、意識改革等を考えていただきたいと思います。

町長（森 宏範）

はい。

挨拶の話は、よく住民の方からも問われるところでございます。

挨拶が大分できてきたとはいえ、まだまだ浸透はしていません。なぜなのかなあ。と思うところでごいますが、うちも庁舎に来客があり、職員がすれちがい、挨拶をしないで行くことはどんな相手であっても、挨拶はすべきだと思いますし、まして委員がそうやって、三郷町のために頑張っている姿を見れば、特定のところになりましたけどね。それは徹底されてないんだなっていうことで、やはりこの特定のところのものだけを取っていうんじゃなくて、町全体を取って、やはり挨拶は大事っていうことを徹底していきたいなと思います。よろしく願いいたします。

委員の皆様で他にその他で何かありますでしょうか。よろしいですか。

はいどうぞ。

教育委員（芝崎 善彦）

立野の交差点から城山台にあがるコーナーのところで、大きな工事が行われている。このことについて、すごく不安にされている方が多い。くずれないのかな。など、町で把握していますか。

町長（森 宏範）

町と県とで工事をストップさせました。

それからその後こないだのこないだまで議会やったんですが、もともとはやはり太陽光を設置する。これが目的だったようで太陽光設置する場合はっていうことで、条例制定を今、したところですよ。

ですので、県についても把握をしており、工事もストップしております。

他によろしいですか。

そしたら、教育委員会、お願いします。

生涯学習課長（高塚 知己）

失礼します。

最後にご報告の方を申し上げます。

資料の5ページをよろしく願いいたします。

令和4年度ウォーターパークの夏期営業、それと三郷町・平群町の一部公共

体育施設の相互利用につきましてご報告をさせていただきます。

まず下段の平群町との総合連携協定についてからご説明の方をさせていただきます。平群町が昨年、維持管理等の理由によりまして、ウォーターパークを廃止しております。

それで平群町民がプールを入れず困っているという話が平群の西脇町長から町長（森 宏範）の方にありました。

一方で町長（森 宏範）はナイターができるグラウンドが三郷町にないということで、下方委員も申し上げましたけども、住民要望があり困ってるということから、平群町民は、三郷町の町民限定をしているウォーターパークを利用でき、一方、三郷町民は平群町のナイター施設のある総合スポーツセンター、および中央公園のグラウンドを平群町民の料金で利用できるととの方向で話が進みました。

本庁の新型コロナウイルス連絡会議で、協議を行った結果、相互利用の協定を締結する運びとなったものでございます。

なお、平群町につきましては、同様の協定を、生駒市と締結をしております。

町民の皆様には、協定の締結を、広報等により周知してまいります。

最後に、資料の上の段をご覧ください。

ウォーターパークの夏期営業についてでございます。

令和2年度、3年度につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止を目的として、町民の方を限定で営業しておりました。

本年度につきましては、三郷町民と先ほど説明をさせていただきました。

平群町民に加え、平群町との話が決まった後、王寺町の方から、王寺町民にもぜひとも利用させてもらえないかという正式に要望がございました。

本町の新型コロナウイルス連絡会議で、協議した結果、3、王寺町民全ての方を対処しようとした場合は、コロナウイルス感染者のリスクが増えることから、王寺町の対象者を町民全員ではなく、小学校6年生以下の児童とその保護者の方に限定させていただくことになりました。

以上報告の方をさせていただきます。

以上でございます。

はい。

町長（森 宏範）

ただいまの報告ですが、ご意見ありますでしょうか。

それでは、以上をもちまして、令和4年度第1回総合教育会議を閉会といたします。

本日は長時間にわたりどうもありがとうございました。